

平成 23 年度(繰越) 強い農業づくり交付金(食品流通の合理化)の実施状況について

23 繰越-1 秋田市中心卸売市場青果・水産・花き棟他

(1) 施設等の整備状況

- 事業実施主体 秋田市
- 地区名等 秋田市外旭川地区
- 整備施設 青果・水産・花き・管理棟 延37,124㎡
- 対象作物 効率的な市場流通
- 事業費等 440,981千円
(うち交付金 146,992千円)



(2) 成果目標の達成状況(平成23年度繰越、平成24、25年度建設、平成26年度から稼働のため、1～3年度目は空欄)

取組名	成果目標	目標値		成果目標の達成プログラム						
		計画時 (H22)	目標年 (H29)	1年度目 (H23)	2年度目 (H24)	3年度目 (H25)	4年度目 (H26)	5年度目 (H27)	6年度目 (H28)	7年度目 (H29:目標)
卸売市場再 編促進施設 整備(青果 ・水産部等)	施設の維持コストを14.2% 以上削減	54,728 千円	46,956 千円	—	—	—	46,956千円	46,956千円	46,956千円	46,956千円
				—	—	—	58,481千円	64,570千円	70,404千円	73,659千円
				—	—	—	-48.3%	-126.6%	-201.7%	-243.5%
中央卸売市 場施設整備 (花き部)	施設の維持コストを14.2% 以上削減	8,995 千円	7,717 千円	—	—	—	7,717千円	7,717千円	7,717千円	7,717千円
				—	—	—	6,622千円	6,393千円	6,269千円	5,692千円
				—	—	—	185.7%	203.6%	213.3%	258.5%

上段：計画 中段：実績 下段：達成率

(3) 事業の成果等

本市場は昭和50年3月の開設から40年以上が経過し、施設全体の老朽化が進行していたことから、緊急かつ重要な必要最低限の部分を本事業で改修したものであり、設備等の不具合が改善され、市場機能の維持が図られた。

成果目標の維持コスト削減については、管理棟、青果棟、水産棟の屋上防水を全面的に改修したことで、雨漏りの発生頻度やそれに係る修繕費は下がっているなどの一定の効果は確認できるが、当初想定した以上に老朽化の進行が著しく、整備箇所以外の修繕が必要となるなど、修繕維持コストが増加した結果、目標を達成できなかった。

一方、花き棟については、平成4年建築と築年月が浅く、本事業の実施により必要箇所の大部分を修繕できたことから、目標以上の維持コスト削減が図られた。

平成26年度（繰越） 強い農業づくり交付金（産地競争力の強化）の実施状況について

26 繰越- 秋田おばこ農業協同組合 集出荷貯蔵施設

(1) 施設等の整備状況

- 事業実施主体 秋田おばこ農業協同組合
- 地区名等 大曲
- 整備施設 集出荷貯蔵施設 2,875.71㎡
- 対象作物 野菜（枝豆、その他）
- 事業費等 550,910千円
（うち交付金 255,051千円）



(2) 成果目標の達成状況

取組名	成果目標	目標値		成果目標の達成プログラム			
		計画時 (H25)	目標年 (H29)	1年度目 (H26)	2年度目 (H27)	3年度目 (H28)	4年度目 (H29：目標年)
産地競争力の強化に向けた総合的推進	枝豆販売額を14%以上増加。	312,459千円	408,480千円	—	—	393,120千円	408,480千円
				—	—	341,441千円	287,941千円
	枝豆販売額のうち契約取引が占める割合を20ポイント以上増加。	—	20.8%	—	—	83.5%	—25.5%
				—	—	17.0%	20.8%
				—	—	15.0%	11.3%
				—	—	72.1%	54.3%

上段：計画 中段：実績 下段：達成率

(3) 事業の成果等

- ・平成29年7月と8月の2回、集中豪雨により枝豆のほ場が冠水し、約30haが収穫皆無となったことに加え、雪解け時期にハトの食害により約5haの早生品種が被害に遭い、収穫面積が平成28年180haから平成29年169haへと減少したため、計画時を下回る販売額となった。
- ・一元集荷出荷所ができたことにより、枝豆のトラック出発時間が午後0時前となり関東市場へ競り開始前に到着することで、相対予約が成立し値決めで取引されるようになった。トラックの延着がなくなったことで、販売のチャンスロスがなくなり有利な販売となっている。
- ・契約取引については、東京荏原青果を通じたイトーヨーカドーへの直接販売、5kgバラ詰めが行われ、11.3%の契約取引となった。次年度もさらに契約量を拡大していく。

平成27年度 強い農業づくり交付金(産地競争力の強化)の実施状況について

27-1 株式会社バイテックファーム大館

(1) 施設等の整備状況

- 事業実施主体 株式会社バイテックファーム大館
- 地区名等 大館市釈迦内地区
- 整備施設 高度環境制御栽培施設 1, 854 m²
- 対象作物 野菜
- 事業費等 1,152,604千円
(うち交付金 533,613千円)



(2) 成果目標の達成状況(平成27年度建設、平成28年度から稼働)

取組名	成果目標	目標値		成果目標の達成プログラム		
		計画時 (H26)	目標年 (H29)	1年度目 (H27)	2年度目 (H28)	3年度目 (H29:目標年)
「強み」のある産地形成に向けた体制整備	野菜の販売額を14%以上増加	182千円	316,969千円	316,969千円	316,969千円	316,969千円
				247千円	75,587千円	272,362千円
				0.1%	23.8%	85.9%
	野菜の販売額のうち契約取引が占める割合を25ポイント以上	0.0%	25.2%	25.2%	25.2%	25.2%
				0.0%	97.0%	98.0%
				0.0%	380.4%	384.9%

※ 上段:計画 中段:実績 下段:達成率

(3) 事業の成果等

生産技術高度化施設(完全人工光型植物工場)の整備によって、季節や天候に左右されない周年栽培が可能となり、消費者の求める安心・安全・高品質で均一化されたレタス類を生産し、地元大館産として、また植物工場産野菜として市場評価の向上に繋がっている。また、更なる品質安定化、作業標準化を徹底し、グローバルGAP認証を取得した(認証取得:平成30年5月14日)。

成果目標の野菜販売額の増加については、安定的にフル生産(日産1万株)を継続し、目標生産量261トンに対して99%と概ね達成したことにより販売額は増加しているものの、目標とする販売額には届かなかった。野菜の販売額のうち契約取引が占める割合増加については、昨年来より大口の安定取引先を確保できていることで、小売向け、業務用向けと共にほぼ全量の買取(契約取引)が実現できている。

目標達成に向けた改善は進んでいるため、引き続き品質管理、作業の平準化等の徹底により周年フル生産体制の安定化に努めていく。

平成27年度 強い農業づくり交付金(産地競争力の強化)の実施状況について

27繰越-1 秋田しんせい農業協同組合 穀類乾燥調整貯蔵施設

(1) 施設等の整備状況

- 事業実施主体 秋田しんせい農業協同組合
- 地区名等 由利本荘市矢島・鳥海地区
- 整備施設 穀類乾燥調整貯蔵施設 延べ床面積1,368㎡
- 対象作物 水稲
- 事業費等 1,124,593千円
(うち交付金 272,369千円)



(2) 成果目標の達成状況

取組名	成果目標	目標値		成果目標の達成プログラム		
		計画時 (H26)	目標年 (H29)	1年度目 (H27)	2年度目 (H28)	3年度目 (H29:目標年)
産地競争力の強化に向けた総合的推進	下位等級指数※1 を10%以上削減	7.9% (事業実施年度の前7中5平均)	3.9%	—	3.9 %	3.9 %
				—	4.7 %	24.1 %
				—	80.0 %	-405 %
	新規需要米の物材費を事業実施地区における直近の物材費に対して95%以下	7,286円/60kg (事業実施年度の前7中5平均)	5,966円/60kg	—	5,966円/60kg	5,966円/60kg
				—	4,224円/60kg	5,145円/60kg
				—	237.4 %	165.9 %

※1 下位等級指数：1等米以外の下位等級米の比率

※ 上段：計画 中段：実績 下段：達成率

(3) 事業の成果等

当該施設の整備にとともない、施設利用者の秋作業の労力が軽減され複合作物（アスパラガス、秋田鳥海りんどう）の作付が拡大している。また、施設の付帯設備である色彩選別機の導入により、高品質かつ均質化商品の供給体制が整った。

平成29年産米については、斑点米被害粒の発生は抑制できたものの、低温・日照不足による青米割合が大幅に高まり、収量と品質が共に低下し、成果目標を達成することができなかった。次年度対策として、気象要因に左右されない良質な苗づくりに努め、育苗期間中の適切な温度管理および病虫害防除の徹底、適正植付株数の徹底などにより、目標達成に取り組む。

また、新規需要米の物材費の削減については、前年度と同様に削減効果が得られている。次年度も低コスト肥料や農薬を使用し、さらに施設利用効率化を図り、コストの削減に努める。